

イチゴ親株ハウスを用いたトマト「すずこま」の栽培

宮城県農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

イチゴ親株ハウス（苗取りに用いる高設ベンチが設置されたハウス）は苗取り以外の時期（8～11月）は使用されない場合が多い。トマト「すずこま」は草勢がコンパクトで心止まり性であり、栽培も比較的容易な品種であることから、使用されていない時期のイチゴ親株用ハウスの有効活用を目的に、親株ハウスで「すずこま」の栽培方法と収量の検討したところ、成果が得られたので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) 6月21日～7月11日に播種し、7月下旬～8月上旬にポットで育苗した苗を1プランター当たり3株で定植し11月末まで栽培すると、1株当たり980～1683gの商品果を収穫することができる（表1，図1，図2）。ポット苗を定植した方が、セル苗を用いるより収量が多い傾向がある。
- 2) イチゴ親株から採苗を行った後、その親株の地上部を刈り取ったイチゴ親株後プランターに定植を行った場合でも、新規のヤシ殻を充填した場合と商品果収量は同等である（表2，図3）
- 3) 生育初期に株を左右に振り分けた後、誘引をしない場合より、支柱等で支えをすると収量が増える傾向がある（表3，図4，図5）。

3 利活用の留意点

- 1) 「すずこま」栽培終了後、イチゴ親株を定植する前に培地消毒あるいは培地交換を必ず行う。また、イチゴ親株後の培地をそのまま利用して「すずこま」の栽培を行う場合は、イチゴ・トマト共通の土壌病害の発生に注意する。
- 2) 受粉処理を行わないと収量が低下するので、必ず授粉処理を行う。授粉処理は、トマトトーン（100倍）の他、花粉が多い場合は振動授粉も可能である。
- 3) 果実の大きさは縦4～5cm，横径3～4cm程度となる（表4）。農薬を使用する際は農薬の適用に注意する（トマト：直径3cm以上，ミニトマト：直径3cm未満）
- 4) 「すずこま」は葉かび病抵抗性品種ではないので、発病に注意する。
- 5) 心止まり型品種のため、わき芽は欠かすことなく全て伸長させて栽培する。畝の左右均等に茎葉が配置されるよう生育初期に株を左右に振り分ける（図6）。また、栽培期間中、収穫を終了した果房や茎葉は病害虫発生の原因や収穫作業の妨げになるので、適宜茎葉を切断し整理を行う。初期の樹勢は、わき芽の発出を促進するよう強めに管理する。
- 6) 定植～着果はじめまでEC1.0～1.3dS/m，かん水0.5～1.0L/株/日，以降樹勢の様子を見ながら1.5～2.5dS/m，0.8～1.5L/株/日で栽培を行った。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話022-383-8132）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

- a みやぎ発信型の新規園芸品目の定着技術の確立（平成25年度）
- b 宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発（平成26年度）

2) 参考データ



図1 イチゴ親株ハウスの「すずこま」
(平成26年10月30日)

図2 収穫最盛期（平成25年10月10日）

表1 定植苗の違い及び受粉処理の有無が「すずこま」の収量に及ぼす影響（平成25, 26年度）

試験区	定植苗	受粉処理	1プランター当たり株数	播種	鉢上げ	定植	収穫開始	月別商品果収量(g/株)			商品果収量(g/株)	収穫果数(個/株)	平均1果重(g)	a当たり収量(kg/a)
								9月	10月	11月				
平成25年度														
ポット苗定植区	ポット苗	有	3株	6月21日	7月8日	7月31日	9月12日	683.0	838.8	161.3	1683.1	47.2	35.6	702
セル苗定植区	セル苗	有	3株	7月1日	-	7月31日	9月16日	318.9	795.3	372.4	1486.5	42.9	34.7	620
受粉処理無し区	セル苗	無	3株	7月1日	-	7月31日	9月19日	161.6	63.4	64.1	289.0	6.8	42.4	121
平成26年度														
ポット苗定植区	ポット苗	有	3株	7月11日	7月29日	8月8日	10月7日	-	601.2	378.9	980.0	20.5	47.5	409
セル苗定植区	セル苗	有	3株	7月11日	-	8月8日	10月8日	-	297.5	411.3	708.8	10.5	68.2	296

注1) プランター当たり3株（株間20cm）畝間120cm，a当たり417株定植とした。

表2 プランターの培土の違いが収量に及ぼす影響(平成26年度)

試験区	定植苗	1プランター当たり株数	播種	鉢上げ	定植	収穫開始日	月別商品果収量(g/株)		商品果収量(g/株)	収穫果数(個/株)	平均1果重(g)	a当たり収量(kg/a)
							10月	11月				
イチゴ親株ポット苗	3株	7月11日	7月29日	8月8日	10月7日	601.2	378.9	980.0 ^{ns}	20.5 ^{ns}	47.5 ^{ns}	409	
新規ヤシ殻ポット苗	3株	7月11日	7月29日	8月8日	10月7日	570.6	356.9	927.6 ^{ns}	19.1 ^{ns}	48.5 ^{ns}	387	

注1) 同一列の異なるアルファベット間にはt検定で5%有意差有り(n=3)。

注2) プランター当たり3株（株間20cm）畝間120cm，a当たり417株定植とした。



図3 イチゴ親株の地上部を刈り取ったイチゴ親株後
プランターに定植用の穴を開けた状態（平成26年度）

表3 誘引の有無による収量比較（平成25年度）

試験区	定植苗	1プランター当たり株数	播種	鉢上げ	定植	収穫開始	月別商品果収量 (g/株)		商品果収量 (g/株)	収穫果数 (個/株)	平均1果重 (g)	a当たり収量 (kg/a)
							9月	10月				
誘引無し	ポット苗	3株	6月21日	7月8日	7月31日	9月12日	683.0	838.8	1,683	47.2	35.6	702
誘引あり	ポット苗	3株	6月21日	7月8日	7月31日	9月12日	683.8	1092.5	2,008	55.0	36.5	837

注1) プランター当たり3株（株間20cm）畝間120cm，a当たり417株定植とした。

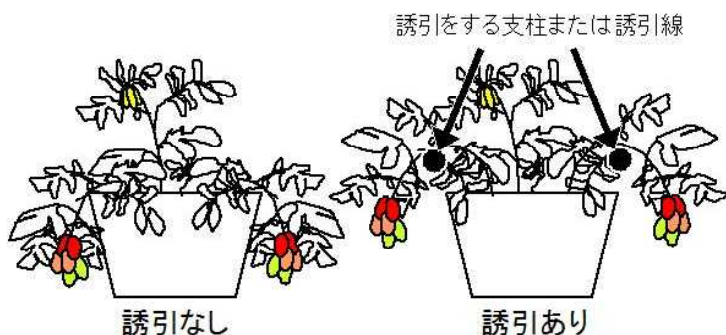


図4 誘引模式図（平成25年度）



図5 誘引図（平成25年度）

表4 果実の大きさ（平成25年度）

商品果	
縦経 (mm)	46.7 ± 5.0
横経 (mm)	35.9 ± 4.6
1果重 (g)	34.3 ± 11.8

注1) 20果計測した平均値

注2) 表中の±は標準偏差を示す (n=20)



図6 生育初期に株を左右に振り分けた様子
(平成26年8月19日)

表5 1a (417株) 栽培する時の資材費目安

資材	規格	所要量	金額
種子代	1000粒	0.5袋	5,250
タンクミックスA&B	200L	3セット	33,000
水道水	m3		30,000
育苗培土	10kg	2袋	2,600
トマトトーン	20ml	2本	400
(コゴブロック (参考))	20ヶ/箱	37箱	(129,500)
合計			71,250
合計 (すずこま栽培する際、ヤシ殻を入れ替えた場合)			200,750

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

なし

b その他

日向真理子・高野岩雄・鹿野弘(2014), 「イチゴ親株ハウスの不使用期間を活用したトマト‘すずこま’の栽培の検討」, 園芸学研究第14巻別冊1 (印刷中)

4) 共同研究機関

なし